

JAL被解雇者労働組合（JAL 争議団）

info@jhu-wing.main.jp

<https://jhu-wing.main.jp/>

羽田空港衝突事故を振り返る 4・11 緊急院内集会報告



超党派の国会議員が多数出席！

奇跡的な結果を良しとせず、再発防止策を！

4月11日、衆議院第一議員会館の多目的ホールで、1月2日に羽田空港で起きた航空機衝突事故を振り返る「緊急院内集会」が開催されました。事故は様々な要因が重なって起きます。なぜ防げなかったのか、何が問題だったのか、再発防止のために何が必要なのか。航空労働者の立場から振り返りました。超党派の議員や秘書の方々をはじめ、沢山の方々が参加して下さい、空の安全への関心の高さが伺えました。尚、当集会の開催にあたり、福田昭夫衆議院議員にお力添えを頂きました。

福田昭夫衆議院議員による開会のご挨拶

JAL 被解雇者労働組合の皆さんの超党派議員の応援団のひとりです。この集会では、専門家の立場からパイロット、管制官、客室乗務員の方に、それぞれ事故の報告と問題提起を頂きます。こうした事故が2度と起きないよう、皆さんと共に共通理解をして、政府はもとより、海保機や JAL の皆さんにも、事故を踏まえて取り組んで頂きたいと申し入れをしたいと思います。JHU の皆さんが頑張っていますが、都労委で最善の裁決が出るよう、最後まで皆さんと応援をしていきたい、それを確認する集会にしたいと思います。



<ご出席頂いた議員の方々>

- 福田昭夫衆議院議員（立民）
- 山本朋広衆議院議員（自民）
- 高橋千鶴子衆議院議員（共産）
- 山添 拓参議院議員（共産）
- 川田龍平参議院議員（立民）
- 高良鉄美参議院議員（沖縄の風）
- 夏目佳代子葛飾区議（立民）
- 杉山公一大田区議（共産）

<ご出席された 12 名の秘書の方々>（アイウエオ順）

- ・落合貴之議員秘書（衆・立民）
- ・大椿ゆうこ議員秘書（参・社民）
- ・小池 晃議員秘書（参・共産）
- ・穀田恵二議員（衆・共産）
- ・高橋千鶴子議員（衆・共産）
- ・田村智子議員（参・共産）
- ・芳賀道也議員（参・無所属）
- ・福田 昭夫議員（衆・立民）
- ・三上えり議員（参・立民）
- ・宮本 徹議員（衆・共産）
- ・山添 拓 議員（参・共産）
- ・吉田はるみ議員（衆・立民）

事故の背景事情を指摘できるのは現場の労働者

JHU 鈴木副委員長



事故は不安全要素が積み重なって起こる。私達は事故にならない為に、それらを改善させるよう取り組んできた。要因や事故の背景事情を指摘できるのは現場労働者であり、自由にものが言える職場環境にするために組合に結集し闘ってきた。そうした者たちを JAL は嫌い、経営破綻に乗じて整理解雇という名目で不当に解雇した。

山本朋広衆議院議員

国会議員からの発言

高橋千鶴子衆議院議員



JAL の解雇問題を知り、納得できない。皆さんと一緒に何ができるか、何とか支援したいと考え、支援物資を購入している。省庁や民間企業に訴えていく根拠になるのは皆さんの動きであり、声です。正しいと思う皆さんの声を背景に我々も頑張っていきたい。



皆さんを現場に戻す闘いを成功させることと、管制官の業務を減らし、人員体制を拡充しなければならない。事故について重要な報告がされるということで、是非新しい知見を頂きながら、国交委員として生かしていきたい。

山添拓参議院議員



奇跡的に乗客の死者がなかったことは大きなこと。奇跡的な結果を良しとせず、ミスや間違いはどこでも起こりうるから、いかに事故に至らないように対策をとらせるのか国会でも議論が必要。国交省は航空管制の問題で抜本的に人を増やしたり、経験を生かすようになっていない。改善させたい。

川田龍平参議院議員



事故の真相解明をしっかりとすることなしに、今後の再発防止策はないと思う。刑事事件を追及する形で事故調査をしてしまうのはおかしい。働く人達が安心して働ける職場にするために、また乗客の安全のために資することができるようにしたい。

高良鉄美参議院議員



沖縄の那覇空港は、米軍機、自衛隊機が共有しているので、非常に過密になっていることを管制官から聞いている。公務についている方、関連の方々は増員すべきで、国民にとっても航空業界の発展にとっても大事だと感じている。JAL 争議で頑張っている皆さんに連帯していきたい。



管制官・パイロット・客室乗務員から問題提起

【写真】左から、国土交通労組 佐藤比呂喜副委員長
JHU 山崎秀樹書記長、JHU 宝地戸百合子副委員長



管制官である佐藤さんは、「管制官の業務実態や機材増の一方で増えない人員体制、国会における管制官を巡る議論等」、パイロットの立場から山崎書記長は、「事故調査のあり方と事故の概要・背景、JAL 機側から見える最新鋭機の落とし穴等」、客室乗務員の立場からは宝地戸副委員長が、「奇跡的な脱出の一方で明らかになった3つの問題点、解雇後も続く JAL の労務体質等」の報告・問題提起を行った。

閉会の挨拶で決意表明

JHU 山口委員長



現在、都労委で斡旋に入っている。解雇後にパイロット 600 人、客室乗務員 6,700 人を採用しているが、優先雇用を無視して、被解雇者を一人も原職に戻していない。モノ言う労働者の排除が目的だったからだ。羽田事故と社長交代は、JAL にとって争議解決の機会であり、利用者、社員、株主にとっても有益なこと。納得できるまで頑張っていく。